

第4問 (20点)

㈱CPA製作所は、本社が東京都、工場が群馬県にあり、工場会計を独立させている。材料倉庫は工場が、製品倉庫は本社が有している。材料購入を含めて支払い関係はすべて本社が行っており、あわせて管理活動も行っている。

下記の(1)~(5)は当製作所の当月に係る取引の一部である。本社および工場において行われる仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切なものを選ぶこととし、仕訳を示す必要がない場合は借方に「仕訳なし」と記入すること。

材	料	工	場	仕	掛	品	現	金	製	造	間	接	費
製	品	本	社	賃	金	・	給	料	買	掛	金	設	備
												減	価
												償	却
												累	計
												額	

- 本社が材料 2,000kg (@810 円/kg) を掛けにて購入し、工場の倉庫に搬入された。
- 工場が当月購入した材料のうち 1,200kg は直接材料として、600kg は間接材料として消費した。
- 本社が工場従業員への給与 1,450,000 円を現金で支払った。
- 本社が当月に設備の減価償却を行った。設備減価償却費の年間見積額は 9,600,000 円である。
- 工場が製品を本社に送付した。当月投入したものはすべて完成しており、その製造原価は直接費 ((2)をのぞく) 2,248,000 円、間接費 ((2)および(4)をのぞく) 494,000 円であった。前月繰越の仕掛品はない。

第5問 (20点)

中野工業株式会社は個別受注生産による製品の製造を行っており、個別原価計算を採用している。下記の [資料] にもとづき 4 月における仕掛品勘定の記入を行い、月末製品棚卸高および当月売上原価を答えなさい。なお、売上原価の金額は当月に生じた原価差異を賦課した金額とする。

[資料]

- 各製品指図書データ

製品指図書番号	材料消費数量	直接作業時間	備考
No. 100	1,000kg	800 時間	3 / 3 製造着手、3 / 19 完成、4 / 18 引渡済
No. 101	765kg	540 時間	4 / 4 製造着手、4 / 24 完成、5 / 3 引渡
No. 101-2	125kg	60 時間	4 / 11 補修着手、4 / 21 補修完了
No. 102	900kg	680 時間	3 / 25 製造着手、4 / 21 完成、4 / 29 引渡済
No. 103	580kg	370 時間	4 / 7 製造着手、4 / 18 完成、4 / 25 引渡済
No. 104	665kg	400 時間	4 / 13 製造着手、4 / 30 仕掛中

- 製品 No. 101-2 は製品 No. 101 の補修を行うために発行した補修指図書である。
- 製品 No. 102 には、上記に加えて前月材料消費量 300kg、前月直接作業時間 200 時間がある。
- 直接材料費は 1 kg 当たり 1,100 円の予定単価、直接労務費は 1 時間当たり 900 円の予定賃率を用いて計算している。当月に発生した材料消費価格差異および賃率差異の総額は 19,000 円の有利差異であった。
- 製造間接費は直接作業時間を基準に予定配賦している。当月実際発生額は 3,084,500 円であり、原価差異は 9,500 円の不利差異であった。
- 予定単価、予定賃率および予定配賦率は前月と同様である。